【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第１区分
【発行日】平成16年9月30日(2004.9.30)

【公開番号】特開2003-184627(P2003-184627A)
【公開日】平成15年7月3日(2003.7.3)
【出願番号】特願2002-298160(P2002-298160)
【国際特許分類第７版】
　Ｆ０２Ｄ　45/00
【ＦＩ】
　Ｆ０２Ｄ　45/00　　３４５Ｚ
　Ｆ０２Ｄ　45/00　　３０５Ａ
　Ｆ０２Ｄ　45/00　　３５８Ｋ

【手続補正書】
【提出日】平成15年9月18日(2003.9.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】
さらに、スロットルバルブ５０の下流には吸気温センサ１００が配置され、吸入空気温度ＴＡに比例した信号を出力する。また、左右バンクの、サーモススタット（図示せず）を介して連続する冷却水通路（図示せず）には温度センサ１０２ａ，１０２ｂが１個ずつ配置されると共に、エキゾーストマニホルド７０の一方には温度センサ１０２ｃがもう１個配置され、エンジン温度（機関温度）ＴＯＨ（エンジン冷却水温ＴＷ）に比例した信号を出力する（温度センサ１０２ａ，１０２ｂ，１０２ｃは水温センサを兼ねる）。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４５】
以下説明すると、Ｓ１０においてＭＥがオーバーフローしているか否か判断する。ＭＥはエンジン回転数ＮＥの逆数を算出することで求められることから、その算出値がオーバーフローしていることはエンジン１６が停止していることを意味する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５１】
そしてＳ３０でカウンタＣＡＣＧの値が基準値ＣＡＣＧＩＮ未満と判断されるときはＳ３２に進み、フラグＦ．ＡＣＧＢＵＺのビットを０にリセットし、Ｓ３４に進み、カウンタＣＡＣＧの値を０にリセットし、Ｓ３６に進み、カウンタＮＡＣＧの値も０にリセットしてプログラムを終了する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５２

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５２】
他方、次回以降のプログラムループにおいてＳ３０でカウンタＣＡＣＧの値が基準値ＣＡＣＧＩＮ以上と判断されるときはＳ３８に進み、フラグＦ．ＡＣＧＢＵＺのビットを１にセットする。これにより、図示しない別のルーチンにおいて、ブザー１５４が鳴動させられる（さらに、前記した警告灯１５２も点灯させられる）。次いでＳ３４に進み、カウンタＣＡＣＧの値を０にリセットし、Ｓ３６に進み、カウンタＮＡＣＧの値も０にリセットしてプログラムを終了する。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６０】
第２の実施の形態においては、機器として油圧スイッチ１４０を例にとって説明する。尚、図示のプログラムもイグニション・スイッチがＡＣＣ位置まで廻されたとき実行され、以後、１００ｍｓｅｃごとにループされる。